

②A—10 愛知県西三河地方農村における食生活に
関する研究（第6報）食事の実態につい
て—安城市栄養調査結果より—

安城学園女子短大 ○稲垣 翠
金子 光美
鈴木 佳子

1. 愛知県安城市において、昭和38年2月11、12日、13日の3日間栄養調査を実施した結果、昭和36年度厚生省国民栄養調査の結果より、更に先回報告した豊田市より良好な摂取状況であった。各業態別（区分、給与者世帯・商業者世帯・農業者世帯・その他世帯）摂取量の比較においてもほとんど差はみられず、農業者世帯の摂取量が、国民栄養調査生産者世帯平均と比較してすぐれていることが分った。安城市はかつて日本のデンマークとしてこの地方における農業の中心地として栄え、最近は交通の発達、工場誘致等により中部経済圏内の工業地帯として新らしい転換をとげ、経済的にもかなり恵まれていることが食生活の上にも反映しているものと思われる。先回豊田市の調査結果でも伺えたように、こうした都市近郊の農村の共通した傾向として栄養摂取量の急速な向上が現われているが、しかし栄養摂取量の向上のみですべて食生活が改善されたと考えるのは早計であろう。

2. 今回の調査においては食品の利用状況・料理形態別・調味料使用状況・嗜好食品等の使用を検討することにより、都市近郊農村の食生活の内容的・質的構成の水準を考察してみた。